

観音様・菩薩の化身、慈愛と社会福祉の母であり女性自立の先駆者

喜多方市生まれの偉人

# 瓜生岩子

初

日本のナイチンゲール

女性初の帝国議会への請願

女性二番目の藍綬褒章

女性初の銅像



会津型 松葉、桜、梅



東京浅草・浅草寺境内の銅像

『自分ばかり良くなっても  
何もならぬと思うのす』

## 瓜生岩子はこんな人

- ◆ 幼くして父を亡くし、家は焼失する
- ◆ 夫は病死、財産は持ち逃げされる
- ◆ 示現寺の和尚に諭され、社会福祉の道へ
- ◆ 会津戦争で敵味方関係なく看護
- ◆ 白虎隊士・娘子隊の手当ても行う
- ◆ 板垣退助の心を動かす
- ◆ 野口英世の母に産婆を教える
- ◆ 渋沢栄一に惚れ込まれる
- ◆ 日清戦争戦没者の妻へ銀杯を贈る
- ◆ 明治天皇・昭憲皇太后も感動
- ◆ 上野・アメヤ横丁にもゆかりがある



孫・裕次郎と(1894年撮影)

喜多方市瓜生岩子刀白頭彰会

【事務局】TEL 0241-24-5257

〒966-8601 福島県喜多方市御清水東7244番地2 喜多方市役所社会福祉課内

# 瓜生岩子の生涯をかけた福祉のあゆみ



1829年/0歳

## ① 岩子誕生

喜多方市字北町  
油屋「若狭屋」の長女として誕生

小田付(喜多方市北町)で油屋「若狭屋」を営む父・渡邊利左衛門と母・りえの間に「イワ」誕生。2月15日、母の実家である熱塩(喜多方市熱塩加納町)の温泉宿「山形屋」で生まれる。戸籍上は小田付の生まれ。



1837年/8歳

## ② 父が病死。家が全焼

喜多方市字北町  
「若狭屋跡」

油屋は山形に支店を出すほど繁盛していたが、父・利左衛門が病死し、その49日法要の夜、親戚宅に行っていた際に店が全焼。住むところがなくなり母と弟の3人で山形屋へ移り、瓜生姓を名乗るようになる。



1864年/35歳

## ⑤ 隆覚禅師が諭す

喜多方市熱塩加納町  
示現寺の隆覚禅師が岩子に諭す

岩子は立て続けの不幸を嘆いて「いっそ尼になりたい」と禅師に言うと、「世の中にはお前より不幸な人は大勢いる」「これからの一切をもっと不幸な人に捧げなさい」「お前は人の喜びを自分の喜びとできる人だ」「そのままの気持ちで苦しむ子供たちを助けなさい」と一喝される。



1868年/39歳

## ⑥ 敵味方関係なく治療

喜多方市岩月町 不動堂  
白虎隊士・飯沼貞吉の治療をした堂

会津戦争で会津藩だけでなく敵の傷病兵も介抱し、「敵も味方もない。けが人はけが人です。けがをした人は皆同じ、国のために戦っているのです」と言った。さながらナイチンゲールのようなこの行いには、土佐(高知県)の敵将・板垣退助も感銘を受けた。



1891年/62歳

## ⑨ 東京養育院に行く

東京都墨田区石原  
渋沢栄一に頼まれ東京養育院に勤務

帝国議会へ女性初の請願「婦女慈善記章の制」を提出。3月には渋沢栄一により東京養育院へ幼童世話係長として呼び寄せられる。この年、昭憲皇太后にも拝謁し、両陛下へ手作りの菓子を献上する。また1888年の磐梯山の大爆発でも救護活動をする。



1893年/64歳

## ⑩ 私立済生病院設立

会津若松市日新町  
私立済生病院を設立

明治24年(1891)に喜多方に産婆研究所を開設。翌年、福島に瓜生会、喜多方と会津坂下に育児会を設立する。明治26年(1893)には、竹田綜合病院の前身となる私立済生病院を設立。野口英世の母であるシカも産婆を習う。

**とじ** 刀自…年上女性の尊敬する言い方  
**イワと岩子**…戸籍上は「イワ」だが、通称として当時女性の敬称であった「子」をつけ「岩子」と呼ばれる  
**会津戦争**…1868年の明治維新・戊辰戦争の中で会津の戦いをさす  
**ナイチンゲール**…イギリスの看護師、クリミア戦争で敵味方関係なく看護した  
**飯沼貞吉**…飯盛山で自刃(自分で死ぬこと)を試みるも急所を外れ生存した白虎隊士  
**渋沢栄一**…元幕臣、明治～大正時代の実業家。岩越鉄道(現在の磐越西線)を開業した  
**野口英世**…世界的な細菌学者、猪苗代町出身で千円札の肖像にもなる  
**喜多方**…かつては会津盆地の北を北方と称し、明治8年8月13日に小田付村、小荒井村、塚原村、稲村、清次袋村が合併し誕生した町

## 用語解説

## 瓜生岩子ゆかりの地MAP





1842年/13歳  
③ 看護の手解きを学ぶ

会津若松市大町  
石堂園の裏にある岩子が  
住んでいた蔵

上三宮(喜多方市)に住む伯父の山内春瓏宅に見習いに行く。山内は会津若松市大町にも家があり、若松城(鶴ヶ城)内の婦人を診療する際に岩子も同行した。



1845年/16歳  
④ 結婚し出店する

会津若松市宮町  
佐瀬茂助と結婚し、呉服店  
「松葉屋」を開く

竹原(会津美里町)出身の佐瀬茂助と結婚し会津若松に呉服店を出店、一男三女をもうける。

店は繁盛するも茂助が病死、さらに番頭が財産を持ち逃げし、店を閉めることになる。



1869年/40歳  
⑦ 幼学校「日新館」設立

喜多方市字北町  
小田付幼学校「日新館」  
跡近くの岩子像

小田付幼学校(会津藩校と同じ「日新館」の名で呼び、同様の教育をしたという。)を建て、会津戦争一周忌法要を満福寺で行う。その後、明治5年(1872)には盗賊に襲われながらも歩いて東京の深川(台東区浅草)の救養会所へ行き指導を受ける。



1886年/58歳  
⑧ 長楽寺内の岩子像

福島市渡  
長楽寺門前に居を移し福  
島鳳鳴会を設立

福島県知事折田平内の勧めで福島に移る。明治26年(1893)には、養護施設福島愛育園の前身「福島鳳鳴会」を設立。福島には福島鳳鳴会育児部が到岸寺、康善寺、常光寺に置かれた。



1894年/65歳  
⑪ 瓜生会と水飴作り

東京都台東区根岸1丁目  
岩子が住んでいた下谷区  
(台東区)の家跡

下谷区上根岸に移り「水飴改良飴糰利用法」伝習所(福島瓜生会支部)を開設。翌年に日清戦争戦没者の妻約3千名に対し、宮中より下賜された包帯の裁ちくずで織った記念織とともに銀杯を配布。

飴作りは上野アメヤ横丁の名前の由来にもなる。



1896年/67歳  
⑫ 藍綬褒章を受章

東京都大手町  
藍綬褒章を受章した2人  
目の女性となる

受章理由は「明治戊辰の役以降幼学校を建て、東京に来て救貧の方法を学び、自宅に貧児救育所を設け、また救育所を福島町に設け福島瓜生会を開き、飴糰をもって煎餅を作り救民の一助とし、ほか育児慈善の事業に30年余り尽くし、公益の利を興したその成績は著明である。」





1897年/68歳

13 岩子の墓

喜多方市熱塩加納町  
示現寺本堂裏山に子らと  
ともに墓がある

4月19日、心臓病で死去し、福島県の長楽寺で葬儀され、内務省の後藤新平が弔辞を述べた。墓は8月19日に示現寺の裏山に建てられ、題字は渋沢栄一の書による。



1901年

14 東京浅草寺の銅像

東京都台東区浅草寺  
浅草寺本堂西にある岩子像

4月19日、渋沢栄一が委員長となり、浅草の浅草寺本堂西側に建立された。日本で最初の女性銅像。除幕式には約500人が参列し、参集者は数千人に及んだ。この他にも福島県内に6つの銅像が建立されている。



(病床に伏す中で昭憲皇太后の  
見舞いを受けた岩子が、  
死去の二日前に詠んだ歌です)

老いの身のなかからざりし命をも  
たすけたまへる 慈悲の深きよ

西暦	和暦	出来事
1897	明治30	4月19日、福島で心臓病で逝去
1896	明治29	三陸地震で救護活動をする
1896	明治29	5月、藍綬褒章を受章する
1895	明治28	日清戦争戦没者の妻約三千名に銀杯を贈る
1893	明治26	福島に福島鳳鳴会(愛育園の前身)設立
1892	明治25	喜多方と会津坂下に育児会ができる
1892	明治25	福島に瓜生会設立
1891	明治24	喜多方に産婆研究所設立
1891	明治24	会津若松に育児会ができる
1891	明治24	8月、伊藤博文より慈善記章を受ける
1891	明治24	6月、昭憲皇太后に拝謁する
1891	明治24	3月、渋沢から東京養育院に呼ばれる
1891	明治24	2月、帝国議会に女性初の請願をする
1888	明治21	磐梯山大爆発、救護活動をする
1886	明治19	福島長楽寺前に転居し墮胎防止を説く
1880	明治13	福島県令山吉盛典から賞与を受ける
1879	明治12	長福寺で裁縫教授所を開く
1872	明治5	小田付で裁縫・機織を教える
1871	明治4	学校を閉じ東京深川の救養会所に行く
1869	明治2	会津戦争一周忌法要をする
1869	明治2	子らのために小田付幼学校を建てる
1868	慶応4	会津戦争で両軍負傷者の手当てをする
1864	文久4	熱塩示現寺の隆寛禪師に諭される
1864	文久4	店を閉め熱塩の実家に戻る
1863	文久3	母りえ死去
1862	文久2	夫茂助病死
1849	嘉永8	長女つね子誕生。以後一男三女となる
1845	弘化2	佐瀬茂助と結婚し呉服店松葉屋を開く
1842	天保13	伯父山内春龍の元で医術を習う
1837	天保8	7月、父渡邊利左エ門病死。家が全焼
1829	文政12	2月15日、岩子誕生



瓜生岩子をもっと知りたいときは…

瓜生岩子記念館 (喜多方蔵の里内・喜多方フラザ南側)

岩子の写真、書簡、勲章等ゆかりの品々が展示されています。

住所：喜多方市押切二丁目109 休館日：12/29~1/3

開館時間：9時~17時(最終入館 16時30分) 入館料：400円 TEL0241-22-6592